

群 教 七	G09 - 02
	平29.265集
	英語 - 中

自分の考えや気持ちを 表現し合うことのできる英語科授業の工夫

—やり取りを充実させる帯活動を生かした
ポスターセッションを通して—

特別研修員 栗原 秀明

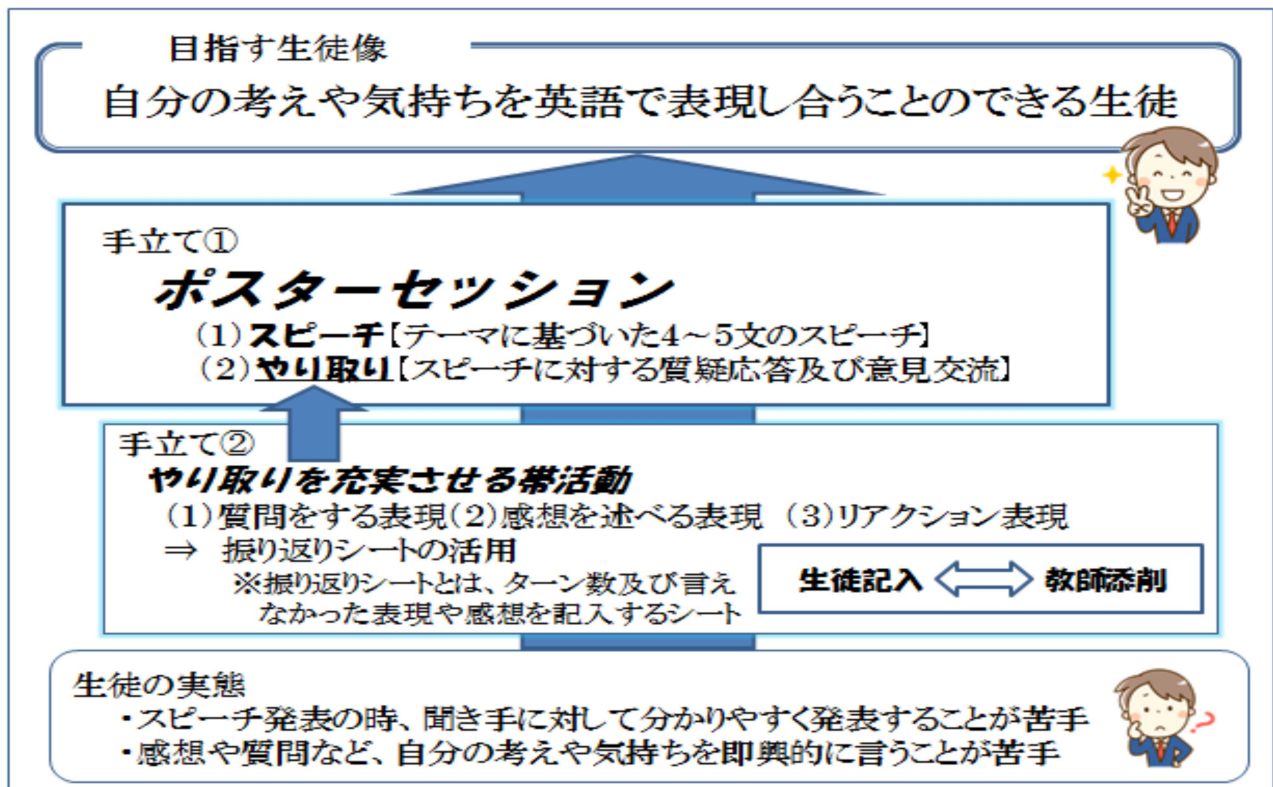
I 研究テーマ設定の理由

新中学校学習指導要領解説外国語編（文部科学省 H29.7）では、話すことの目標が「発表」と「やり取り」とに分けて示された。「発表」では、「『日常的な話題について、事実や自分の考え、気持ちなどを整理し、簡単な語句や文を用いてまとまりのある内容を話すことができるようにする』」、「やり取り」では、「『日常的な話題について、事実や自分の考え、気持ちなどを整理し、簡単な語句や文を用いて伝えたり、相手からの質問に答えたりすることができるようにする』」ことが目標の一つとして挙げられている。

生徒は、これまでに様々なテーマでShow & Tellを実施してきた。多くの生徒は、事前に書いたスピーチ原稿をもとにRead and Look up方式で発表することはできるが、聞き手を意識し、聞き手に対して分かりやすく発表することには難しさを感じている。また、聞き手はスピーチに対して、その場で自分の感想を述べたり、質問をしたりするといった自分の考えや気持ちを即興的に言う活動に苦手意識を持っている。そこで、発表とやり取りの両方を含むポスターセッションを行う。ポスターセッションとは、まず発表者が写真や絵を用いたポスターをもとにスピーチを行い、その後発表者と聞き手で質疑応答及び意見交流を行うという活動である。この活動をテーマを替えながら定期的に行い、発表とやり取りを繰り返し行うことで、自分の考えや気持ちを英語で表現し合うことのできる生徒を育成することができると考え、本研究テーマを設定した。

II 研究内容

1 研究構想図



2 授業改善に向けた手立て

ポスターセッション（スピーチ→質疑応答及び意見交流）を行う場を設定する。また、質疑応答及び意見交流を充実させるための表現を帯活動で習熟させていく。

手立て1：ポスターセッション

- ①「修学旅行で一番印象に残っている見学場所」や「自分が考えたオリジナル新商品」など、聞き手に是非伝えたい、聞き手が発表を聞いてみたいと思うテーマを取り上げる。
- ②発表者は自分で作成した簡易ポスターを見せながら、4、5文で事実や自分の考え、気持ちを聞き手に分かりやすく発表する。
- ③聞き手は、発表に対して英語で質問をしたり、感想を述べたりする。

手立て2：やり取りを充実させる帯活動

- ①生徒は日常生活に関するやり取り（4文以上の対話）をペアで、1～2分間で行う。提示されたトピックに対して、相手に聞きたいことを質問したり、自分の考えや気持ちを即興的に言ったりする。黒板に掲示されたりアクション表現を必要に応じて使う。
- ②毎回活動終了後、振り返りシートにターン数及び言いたかったけれど言えなかった表現や感想を記入する。
- ③教師は感想に対するコメントや言えなかった表現に対する表現例を書き、振り返りシートを生徒に返却する。

このようにポスターセッションを通して、スピーチの際聞き手を意識して話したり、やり取りを通して自分の考えや気持ちを即興的に伝えたりすることができるようになる。

Ⅲ 研究のまとめ

1 成果

- やり取りを習熟させる帯活動では、回数を重ねるうちに、トピックに応じた展開のしかたを考え、自分が聞きたいことを質問できる力が向上した。また、毎回活動後に振り返りシートに対話のターン数や言いたかったけれど言えなかった表現を記入することで、生徒は自分自身の成長を感じたり、自分が言える表現の幅を広げたりすることができた。
- ポスターセッションでの発表に関して、発表者は聞き手に対して難しい表現を言い換えながら発表を行うことで、聞き手に対してより分かりやすく発表できるということを体感できた。
- ポスターセッションでのやり取りに関して、質問する力を身に付けつつあり、簡単な語句や文を使って、意欲的にやり取りを続けることのできる生徒が増えた。

2 課題

- やり取りを充実させる帯活動では、トピックが日常生活に関するものであったため、ポスターセッションで取り上げたテーマにおいて使われる表現との関連が薄い面があった。また、学習形態もペア活動であったため、ポスターセッションにおけるグループ活動とのつながりが弱かった。ポスターセッションのテーマに準じたトピックを選んだり、段階を追ってグループ活動も取り入れたりして、帯活動を構成していく必要がある。
- グループによるポスターセッションでの発表では、スピーチ原稿をそのまま読んでしまう生徒も見られた。準備したものをそのまま読むということから脱却することを目指し、キーワードやキーフレーズのみを書かせたメモを作成し、それをもとに発表させていく工夫が必要である。
- ポスターセッションでのやり取りにおいて、自分が聞きたいことを即興的に英語で表現することに難しさを感じる生徒が依然として多かった。スモールステップとして、自分が聞きたいことを英語でどのように質問するのかをクラス全体で考え、質問例を共有していく機会を設けていくことが必要である。

実践例

1 単元名 「My New Original Product」(第3学年・2学期)

2 本単元について

小さい頃に見たアニメ「ドラえもん」で、ドラえもんが四次元ポケットから取り出す奇想天外な道具に心躍らせた人は多い。生徒も日常生活を送る中で、より快適に過ごすために「こんなものがあつたらいいな」と感じることもある。そのアイデアをもとにして、オリジナル新商品を考える。生徒は持ち前の豊かな発想を生かしながら、構想メモを活用して、自由にアイデアを練る。生徒は自分のアイデアを絵で表現した簡易ポスターと4～5文のスピーチ原稿を作成する。また、想定される質問に対しての応答例を準備しておく。生徒は4人グループになり、発表者が簡易ポスターを見せながらスピーチをし、その後、発表者と聞き手で質疑応答及び意見交流を行うポスターセッションを複数回行うことで、発表とやり取りに自信を持たせることができる。その後、同様の流れでALTとのパフォーマンステストにつなげていく。言語材料としては、既習の表現を必要に応じて活用する。これらの活動を通して、自分のアイデアを簡単な語句や文を用いて説明する力や質問したり、感想を述べたりしながら自分の考えや気持ちを即興的に伝える力を育成することができる。と考える。

目標	○オリジナル新商品のポスターを見せながら、自分のアイデアを簡単な語句や文を用いて英語で説明することができる。 ○発表者が提案する新商品に対して質問したり、感想を述べたりしながら自分の考えや気持ちを英語で即興的に伝えることができる。	
評価 規 準	関心・意欲・態度	オリジナル新商品について、話す活動に積極的に取り組んでいる。
	外国語表現の能力	オリジナル新商品について自分のアイデアを英語で説明したり、発表者が提案する新商品に対して質問したり、感想を述べたりしながら自分の考えや気持ちを即興的に伝えたりすることができる。
	外国語理解の能力	オリジナル新商品に対しての友達や教師からの質問を理解することができる。
	言語や文化についての知識・理解	接続詞や比較表現、5W1Hを中心にした疑問詞等、既習の言語材料について理解している。
過程	時間	主な学習活動
前単元 帯活動	15分× 10回	・質問をする表現や感想を述べる表現、リアクション表現を使いながら、1～2分のやり取り(日常生活に関して4文以上の対話)をペアで行う。
課題把握	第1時	・オリジナル新商品について自分のアイデアを英語で書く。
課題	第2時	・ペアでオリジナル新商品について説明し合う。
追究	第3時	・オリジナル新商品についてグループや全体でのポスターセッションを行う。
まとめ	第4時	・ALTにオリジナル新商品を説明し、質問に答える。(パフォーマンステスト)

3 本時及び具体化した手立てについて

本時は全4時間計画の第3時で、生徒が自分で考えた「オリジナル新商品」について4人グループやクラス全体でポスターセッションを行う場を設定した。また、ポスターセッション中のやり取りを活発化させるために、前単元からの帯活動で、日常生活に関しての4文以上の対話をトピックを替えながら行っていく活動を実施した。

手立て1：ポスターセッション

①発表者は「オリジナル新商品」について、簡易ポスターを見せながら、自分のアイデアを説明する。

②聞き手の生徒は発表者の提案する新商品に対して、自分が聞きたいことを質問したり、自分の感想を述べたりし、発表者とやり取りする。

手立て2：やり取りを充実させる帯活動

- ① “What do you want for your birthday?” のようなトピックについて、ペアで1～2分間対話する。
- ②活動終了後、振り返りシートに対話のターン数や言いたかったけれど言えなかった表現や感想を書く。
- ③教師は感想に対するコメントや言えなかった表現に対する表現例を書き、振り返りシートを生徒に返却する。

4 授業の実際

(1) 手立て1 ポスターセッション

前時までにオリジナル新商品について自分のアイデアを英語で書き、ペアで説明練習をしてきた。本時は、オリジナル新商品をクラスの友だちと共有することをめあてとした。

Today's Goal: To share about our new original products

①対話口頭練習（弾丸インプットシート）

ポスターセッションでの対話例をペアで、相手を替えながら口頭練習した（図1）。

②モデルの提示

教師と代表生徒3名でモデルを示し、ポスターセッションのやり方を確認した。

③ポスターセッション

3～4人1グループになり、一人につきスピーチ20秒間、やり取り2分40秒間、計3分間の持ち時間でポスターセッションを行った（図2）。Helping Sheet（図3）を各グループに1枚配付し、質問が思い付かない生徒は参考にしても良いことを伝えた。

3rd grade Dangan Input		My New Original Product 欄
		class () name ()
ENGLISH	JAPANESE	
1 Look at my new original product. This is "Actress Hat."	私のオリジナル新商品を見てください。これは「女優帽」です。	
2 When do you use it?	いつそれを使いますか。	
3 I often feel nervous / when I make a speech. So I use it / when I want to make a speech smoothly / in front of a lot of people.	私はよく緊張します/スピーチをするとき。だから、私はそれを使います/スムーズにスピーチをしたときに/たくさんの人々の前で。	



Helping Sheet	
質問例	
○「いつそれを使うのか」をたずねるとき	→ When do you use it?
○「どのように使うのか」をたずねるとき	→ How do you use it?
○「それは何でできているのか」をたずねるとき	→ What is it made of?
○「重さはどのくらいですか」をたずねるとき	→ How much does it weigh?

図1 弾丸インプットシート

図2 ポスターセッション

図3 Helping Sheet

【ポスターセッションでの実際のスピーチとやり取り】

新商品名 「I can fly」

～スピーチ～

Look at my new original product. This is "I can fly." If you want to fly in the sky and go out, you can use it. When you want to fly in the sky, you should pull both levers. [両方のレバーを引くジェスチャー]

～やり取り～

Do you have any questions?

Q: What is it made of? —This is made of usual cotton.

Q: How big is it? —It is as big as a usual bag.

Q: How much does it weigh? —It's a little heavy.

Q: What color is it? —...many many colors.

Q: How much is it? —It's 7,600 yen.



生徒自作の
簡易ポスター
商品名：I can fly

④授業終末時の振り返りで生徒が書いたコメント

- ポスターセッション“My New Original Product”を通してできるようになったこと、学んだこと、次回のALTとのパフォーマンステストに向けて生かしたいことは何ですか？
- ・学んだ言葉が伝わると嬉しい。質問されたときの対応がもう少しできるといい。

- ・自分の伝えたいことを今まで習った英語を使い、みんながわかるように言うことができるようになった。
- ・もう少し返答の際の時間を短くしたいです。
- ・急な質問にもなんとなくだが、答えることができた。
- ・どんな質問に対しても動揺せずに、自分の知っている英語でどうにかして伝えようとすることができた。
- ・文にならなくても自分の知っている単語をつなぎ合わせ、相手に伝えられた。

(2) 手立て2 やり取りを充実させる帯活動

前單元から1回15分程度の帯活動として、トピックや対話相手を替えながらのやり取りを10回行った。

①トピックについて、4文程度の会話例をクラス全体で作成し共有した。

②次にペアで1～2分間対話を行った。

③振り返りシートに対話のターン数及び言いたかったけれど言えなかった表現や感想を書かせた。回収後、教師は、感想に対するコメントや言えなかった表現に対する表現例を書き、振り返りシートを生徒に返却した。

【振り返りシートへの記入内容（矢印の後は教師添削の表現例）】

トピック	ターン数	言いたかったけれど言えなかったことや感想
1 Do you know how to play the guitar?	4	質問を考えるのが難しかった。 言えなかったこと「 <u>その曲はどこが良いのか</u> 」 → “What do you like about the song?”
2 What do you want for your birthday?	7	「 <u>他に何が欲しいか</u> 」が言えなかった。 → “Do you want anything else?”
3 What do you do in your free time?	8	「 <u>久しぶりにそれをした</u> 」が言えなかった。 → “I haven't done it for a long time.”

5 考察

ポスターセッションでは、「オリジナル新商品」というテーマが生徒の興味関心を引き、自分の考えを意欲的に表現しようとする姿勢につながった。ポスターセッション中の「発表」では、聞き手にとって難しい表現を言い換えながら、聞き手の生徒に分かりやすく発表できた生徒が3分の2程度いた。振り返りシート（自己評価）では、「自分のアイデアを簡単な語句や文を用いて説明できましたか」という項目において、5点満点中平均が4.2であった。一方で、スピーチ原稿をそのまま読んでしまう生徒も見られたので、キーワードやキーフレーズのみを書かせたメモを作成し、それをもとに発表させていく工夫が必要である。「やり取り」では、発表者のオリジナル新商品に対して、「それは何色ですか」や「どこで買えるのか」などと自分が聞きたいことを即興的に質問できた生徒が数名見られた。しかしながら、支援を要する生徒のために用意したHelping Sheetに大きく依存して質問をしていた生徒も見られたので、活動回数に応じて段階的にHelping Sheetを使用させたり、聞きたいことを英語でどのように表現するのかを全体で考え、共有したりしていく必要がある。

やり取りを充実させる帯活動では、回数を重ねるにつれ、ターン数を増やしたり、相手の考えに応じて質問を工夫したりすることができるようになった。また、活動後に振り返りシートに言いたかったけれど言えなかった表現や感想を記入させ、教師による添削後フィードバックしたことにより、生徒は自分の成長を感じたり、表現の幅を広げたりすることができた。特に感想として、「難しい表現なども他の言葉で代用しながら表現することができた」と書いた生徒もおり、自分の考えや気持ちを表現する方法を理解させる上で有効だった。一方で、トピックについてはポスターセッションで実際に使われる表現との関連が薄いという点においては課題が残ったので、内容をポスターセッションでのテーマに準じたものにしていく工夫も必要であった。

ポスターセッションを複数回実施することで、聞き手に分かりやすく発表したり、自分が聞きたいことを質問したりすることに少しずつ慣れ、生徒各自の表現力を向上させることができた。テーマを替えながらポスターセッションを行うことにより、「発表」と「やり取り」の両方の力が更に向上すると考える。